

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300370		
法人名	医療法人 むつき会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護「いおり」		
所在地	福島県郡山市桜木一丁目1-9		
自己評価作成日	平成25年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成25年11月29日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が人間として当然の感情である、喜怒哀楽の感情表現をはじめ、自宅にいれば行っていたことを考えながら、ご家族様と共に家事や外出など普通の生活ができるように心がけています。  
 地区の自主防災会と協定を結び、非常時にはお互いに協力して支えていく関係を構築しています。  
 又、母体が医療法人ということもあり、医療との連携に力を入れています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一人ひとりの思いや生活のペースを尊重し、見守りながらその人らしい生活が送れるよう支援している。  
 利用者の健康状態や服薬の状況を把握し適切な判断をし、家族や医療機関と相談して安全・安心して暮らせるよう取り組んでいる。  
 地域の方から要望があり防災協定を結び、災害時の一時避難場所として提供し、地域に貢献している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を、分かりやすく箇条書きにした「スタッフ心構え」を毎朝のミーティングの際に全員で読み上げ、職員一人ひとりに理解してもらい、実践につなげている。 新入職員に対しては、一人ひとりに法人の理念を説明している。	職員一人ひとりが理念を理解し、利用者の生活習慣や価値観を大切に、日々のケアにつなげている。日頃から、ことばかけや態度を振り返り、理念がケアに反映されているか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大通りに面していて住宅が少ないため、日頃から挨拶する少ない環境となっている。 9月より町内会に入会したので、今後地域のイベント等に積極的に出向いていく予定。	地域の自衛消防団から提案があり、地域の方と一緒に防災訓練を行っている。チラシを配布し事業所の行事に参加を呼びかけ、法人の地域交流室を利用して交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流室にて、外部の講師を招き地域の皆様にも参加して頂ける研修を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容を書面にして、法人事務局及び各職員が閲覧できる環境を作り、サービス向上に努めている。 また、具体的な意見については、スタッフミーティングなどでも取り上げ、可能な事はすぐに実行するよう現場に落としている。	会議で、震災時に避難先等の確認が困難になる場合があるので、何か方法がないかとの提案があり、ホームページを立ち上げている。包括支援センターの依頼で実習生が運営推進会議に参加し、認知症について活発な話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	郡山市にこちらの取り組みを伝えると共に、分からないことなどを相談するなどしている。又、福祉フェスティバルへの参加など、協力関係の構築に努めている。	事業所の状況を報告し、相談しアドバイスをもらい、普段から協力関係ができています。市の介護相談員を派遣していただけるよう要請しようと考えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	福島県の「身体拘束ゼロ作戦」を実践している。基本的に日中は玄関(出入口)の施錠も行っていない。又、スピーチロックも行わないように、スタッフ同士で注意している。	職員は身体拘束の内容とその弊害を理解し、抑圧感のない自由な暮らしができるよう支援している。家族から身体拘束もやむを得ないと要望があっても、リスクを説明し見守りをしながら対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一回開催しているスタッフミーティング等で、虐待防止について学ぶ機会をつくり、合わせて法令遵守の観点からも、虐待を目にした時、耳にした時は必ず報告する義務があることを確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、様々な家族形態の利用者が増加することが予測されるので、どのような家族状況であっても、必要なサービスが利用できるような体制が必要だと思ふ。日常生活自立支援事業や成年後見制度の正しい知識及び運用について、研修への参加や法律の確認を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人様やご家族様と直接お会いし、契約書の内容を確認しながら説明を行っている。時々質問等をお聞きしながら、補足説明を行い理解・納得して契約して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時ご利用者(入居者)様からの意向は記録に残すようにしており、面会や運営推進会議等の際に、ご家族様の意向を伺っている。月に1回開催しているスタッフミーティングにおいて、意向を反映するための具体的な方法を検討している。	面会時に、にいただいた意見や要望は、職員が判断できることは事は応え、即答できない内容は管理者に伝え、統一した対応が出来るようにしている。事業所の行事に参加していただき、気軽に話が出来よう雰囲気作りをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕のショートミーティングや、月1回のスタッフミーティングの際に意見や提案を受け付けており、改善可能なものは実施し、法人での判断が必要な件は法人の会議等で取り上げるなど、運営に反映するシステムにしている。	管理者は職員が、日々のケアの中で気付いた事を受け止め話し合い、運営に反映できるようにしている。ミーティングではテーマを決めて、利用者本位のケアに結びつく活発な意見が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与やベースアップの他に、能力に応じた研修への参加や、責任のあるポジションへの移行など、各自の努力により得た、個々の能力が最大限発揮できる環境で勤務できるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時に試用期間(3ヶ月間)中の実習計画を作成し、指導する側と受ける側とが同じ目的を持って研修を実施している。その後も定期的に事業所内研修や、法人での勉強会及び、外部研修に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内に多くの事業所があり、定期的に交流する機会があり、法人外においては、研修に参加させることで交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と面談し、直接意向をお聞きし、当事業所で出来る事・出来ない事、程度の問題や手法の問題等を相談させて頂き、ご納得頂いてから利用を開始している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と面談し、直接意向をお聞きし、当事業所で出来る事・出来ない事、程度の問題や手法の問題等を相談させて頂き、ご納得頂いてから利用を開始している。利用開始してからも、利用状況等を随時ご家族様に報告し、情報の共有に努めることで、信頼関係の構築に努めている。		
17	○	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様が最も困っている部分からニーズを抽出し、本当に必要なサービスを受けることができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活する、ということを前提に、日常生活（掃除・洗濯・調理など）の場面で、出来ることは行って頂き、お互いに助け合いながら生活し、良好な人間関係が構築できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の生活の様子を、毎月居室担当者が手紙でご家族様に報告している。外出や外泊も含めて、ご本人様の思いが達成できるような支援をご家族様と共に行っている。又、ご家族様にも積極的に行事に参加して頂くことで、ご本人様の状態や、事業所の取り組みを理解して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人や友人が面会に訪れたり、外食へのお誘いで一緒に外出するなどしている。又、そのような申し出をしやすいような雰囲気作りなどを行い、馴染の関係が途切れないようにしている。	地域の知り合いの方が多く、頻繁に訪れ馴染みの関係が継続している。昔のクラブの仲間と一緒に、活動した場所に出かけたり、食事に行く事などこれまでの関係が続けられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の得意分野で活躍して頂けるように配慮し、お互いに協力しながら生活できるような環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、ご家族様に行事に参加して頂くことや、相談等に応じるなどの対応を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話などから、ご本人様の発言をそのまま受け止めるだけではなく、なぜその発言が出て来たのか、その背景や、発言の裏に隠れている言葉にしていけない思いを理解するように努めている。	本人の生活歴を知り、日々のかかわりの中で声をかけ、行動や表情からくみ取ようとしている。職員全員で、一人ひとりの思いや暮らしかたの希望、意向などを把握し確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様からの聞き取りや、これまで利用していたサービス事業所等からも情報を頂き、これまでの生活の流れを理解するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声かけや状態観察、日々の記録により気づく普段との違いなどから、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングとカンファレンスを行い、意向要望の変化や、心身状況の変化について検討し、介護計画に反映させている。	本人家族と職員・看護師が思いや意見を聞き話し合い、計画作成をしている。利用者の状態変化に応じて、その都度話し合いをし、柔軟に見直しができるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活で普段との違いや、これまでに無かった反応などを記録し、情報を共有しながら、よりその方に合った介護計画になるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅にいれば行はずのこと(買い物・外食・ドライブ・旅行・娯楽等)を、家族とスタッフが協力しながら行い、普通の生活に近い環境となるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や民生員と協力しているが、今後老人会や地域のクラブ活動などへの参加も選択できるような支援を行っていききたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人様とご家族様の希望を優先に決めて頂き、定期的及び異常を発見した際には、早急に連絡して情報の共有及び、信頼関係の構築を図っている。	本人・家族が希望するかかりつけ医となっている。受診は家族が基本となっているが、同行できないときは職員が代行している。受診の結果は、家族に知らせ情報を共有し、安心して医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、職場内の看護師及び併設事業所の看護師に連絡相談できる環境となっており、必要に応じてクリニックの看護師とも相談し、適切な受診や看護を受けることができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	異常がある際には早期に受診して頂き、既往や経過などの情報を伝え、早期受診・早期退院ができるよう努めている。 入院中も可能な限り面会に出向き、現状把握及び、ご家族様・医療相談員等との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時より大まかな方針をご家族様と打ち合わせ、身体機能の低下に伴いご家族様が望むことと、当事業所で出来る事を相談し、より詳しく方針を決めている。その際、主治医とも方針を共有し、支援に取り組んでいる。	利用者の状況の変化に応じて、医師の意見をいただきながら、繰り返し段階に応じて話し合いをしている。重度化・終末期について、医師に講師になっていただき、在宅医療について勉強するなど支援を行えるよう準備を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルと、緊急時の電話連絡網を作成し、いつでも見ることができるようになっている。ADEを常備しており、職員がADEの使用方法についての研修会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災通報訓練(夜間想定を含む)を実施している。 地域の自主防災会とお互いに協力することを約束する協定を締結しており、合同での防災訓練も実施している。	消防署の協力を経て、避難訓練に地域の方も参加していただき安全・安心に避難出来るようにしている。夜間想定訓練時に消防署から、走行中の車両に応援・協力を求めるなど、迅速な避難が出来るようアドバイスをいただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に敬語で話しかけるが、個人に合わせた対応も行っている。プライベートに関わる内容の話の場合は、居室で話をするなどの配慮をしている。	一人ひとりの出来ること出来ないことを理解し、敬語を基本とし、方言を使ったりその人にあったことばかけをしている。利用者同士で、プライバシーを損ねることがある場合は、職員が声をかけたり場所を変えてさりげなく間に入り、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で希望を確認することや、いくつかの選択肢の中から選んで頂くなど、状態に合わせて工夫しながら、出来る限り自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事作りをしたい方や、手作業(塗り絵・工作等)をしたい方、計算問題等をしたい方など、その人が行いたいことを中心に行っている。場合によっては買い物などにでかけることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を選んで頂いたり、理美容の調整をするなどしておしゃれができるように支援している。時々はレクの一環で希望によりマニキュアを塗るなどの対応も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者様が一緒に準備や食事、片付けを行い、会話を楽しみながら和やかに食事ができるようにしている。入居者様が今一番食べたいものを、会話の中から聞き出し、外食に出かけるなど、食に対しての興味ももてるような取組をしている。	利用者の希望するメニューを取り入れ、食材の買い物に行くなど、食事を一日の大切な活動の一つにしている。利用者のペースに合わせてゆったりと介助しながら、職員も一緒に食事をし、楽しい雰囲気を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量をチェックし、食事形態を変えたり、数回に分けて水分摂取を勧めるなどして、栄養状態の悪化や脱水防止に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。ご本人様の状態に合わせて、声かけ・誘導・一部介助・介助を行い、口腔内の清潔が保持できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄パターンを確認しながら、自然な形で排泄ができるように支援している。	自尊心に配慮し、利用者の表情を見ながら本人に合わせて誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。失敗してしまった場合でも、本人が傷つかなないように、さりげない配慮をし対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足の解消や、乳製品・食物繊維の摂取など、出来るだけ薬に頼らない便秘解消に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	365日いつでも入浴できるようになっている。希望によって午前でも午後でも入浴できる。夜間の入浴については今後の課題としている。希望や状態に応じて足浴も行っている。	その人の体調や気分に合わせて足湯にしたり、しょうぶ湯やゆず湯等にし、季節感を感じながら楽しんで入浴できるよう支援している。利用者の身体状況を考え、機械浴や個浴で入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に就寝時間は決めておらず、ご本人様が寝たい時に寝ることができるようになっている。寝具の清潔保持に努めており、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ一人ひとりが薬について理解すると同時に、誤解や間違いがないように、薬の内容書を薬保管場所に常備している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや掃除・洗濯物たたみなど、日常生活の中で出来る部分を役割として協力して頂いている。生活歴により晩酌などもできるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ショッピングセンターや外食・散歩など、数人で出かける事やご家族様と協力して個人で出かけるなどの支援をしている。	近くの公園に散歩したり、ショッピングモールにウインドウショッピングに出かけている。友人・知人が事業所に、誘いにきてくれた時は、一緒に出かけられるよう準備を手伝うなどの支援をしている。季節が感じられるよう、遠方に出かけるなどドライブを楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月1万円のお小遣いをご家族さまから預かっており、欲しい物は購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、いつでもかけることができるように支援している。 年賀状や暑中見舞い(残暑見舞い)と一緒に作成し、出したい人に出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に木目調で統一しており、温かみを感じながら生活して頂けるように配慮している。必要以上の照明や音などで不快にならないよう配慮している。	利用者と職員と一緒に手作りした、作品や日めくりカレンダーなどを飾り、くつろげる居心地の良い空間になっている。居室とトイレ等の入り口をわかりやすく、利用しやすいように、床の一部を色分けした工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファ等置き、気の合った入居者様同士が楽しく過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。 (小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	全室個室となっており、使い慣れた家具や思い出の品を持ち込んで頂いている。自分の部屋として好きなようにレイアウトし、ご本人様が最も落ち着くような使い方をしている。	鏡台やたんすや馴染みのものを、自由に持ち込んでもらい、その人らしい居室作りを支援している。冬の水は冷たいので、洗面台にお湯が出るよう配慮している。家族の方に安全に配慮した家具等について話し、理解していただいている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	担当者会議やケースカンファレンス等で職員の関わりを統一し、必要以上に介助しないことと、無理をして危険な行為をしないように注意しながら、出来ることを行うようにして頂いている。		